

2026年度

第2回 とやま歯科衛生士フォーラム

【日時】令和8年7月5日（日）9:30～12:00

【会場】富山大学附属病院 2階 総合臨床教育センター 多目的研修室

【参加費】無料

【プログラム】

9:30 開会の辞

9:35～ 一般演題

座長：黒部市民病院 朝野 直美

1. 当院における周術期口腔機能管理の現状と課題

済生会富山病院歯科

○野村望、出分麻友、丹羽 小都美

令和6年度の診療報酬改定により、手術を伴わない急性期脳梗塞患者等、集中治療室における治療が必要な患者が対象者として追加された。当院では周術期口腔機能管理対象の初診患者は2024年で192件、2025年で200件とやや増加しているが、全ての対象者への算定は困難な現状である。今後医科歯科連携の強化が推進されていく中で、周術期口腔機能管理を拡充させるため当院の現状と今後の課題について検討し、その概要について報告する。

2. 当院における周術期口腔機能管理の現状と展望

富山市民病院 歯科口腔外科

○友山ひかり、中西佳織、笹岡怜美、増村優衣、荒井瑠美、野口映、石坂理紗、朽名智彦

当院では2012年6月より周術期口腔機能管理を実施している。介入数は年々、着実に増加し、2025年度の新規介入数は697件であった。これは院内において、周術期口腔機能管理の重要性が周知されてきたことはもとより、歯科衛生士の増員や術前検査センターとの連携強化が奏功した結果である。本発表では、これまでの活動を振り返り、当院の特色や課題、および今後の展望について紹介する。

3. 当院における周術期口腔機能管理の活動内容と課題

富山大学附属病院 顎口腔外科・特殊歯科

○山口百々穂、老月 恵、高塚紫巳、佐伯唯衣、山田慎一

周術期口腔機能管理が保険導入され14年経つが、当院では当初より周術期管理の体制の構築を行ってきた。しかし、2025年度の当院での全身麻酔件数は3766件、外来通院センター(薬物療法)利用患者数は966名/月であるが、実際に当科での2025年度の周術期口腔機能管理初診数は1734名であった。そこで、今回、われわれは当院での周術期口腔機能管理のこれまでの活動内容と今後の課題について検討したので報告する。

4. 化学放射線療法を受ける喉頭がん患者への周術期口腔ケアの実践報告

富山県立中央病院 歯科口腔外科

○坂上佳菜子、加藤直美、新村莉由、西本詠子、清水まや

喉頭癌に対し化学放射線療法の患者に対する周術期口腔ケアの実践について報告する。治療をとまなう口腔粘膜炎、口腔乾燥、味覚障害、感染リスクの増大は摂食嚥下機能やQOLの低下を招く。治療前の評価、専門的口腔清掃、セルフケアの指導を行い、合併症予防と症状緩和に努めた。治療完遂を目標とし、セルフケアを積極的に取り組んだ患者のモチベーションを活かした口腔管理の実践について考察する。

5. ダトロウェイ投与患者における口腔粘膜炎の一例

－当院の周術期口腔管理の取り組み－

金沢医科大学病院 歯科口腔外科 医療技術部 口腔衛生チーム

○山村 真由美、新谷麻美、沖田奈々葉、松平絢菜、岡田真里奈、首田千尋、沖津佳子
田中 美恵、谷内優奈、井山七海

近年、化学療法が進歩により治療選択肢が広がる一方、口腔粘膜炎や口腔乾燥などの口腔有害事象への対応が重要となっている。2025年より臨床使用が開始されたダトロウェイは新規抗体薬物複合体として注目される一方、口腔粘膜炎の発現率が高いとされているが臨床報告は少ない。本報告では当院における周術期口腔管理の取り組みとダトロウェイ投与患者に発症した口腔有害事象の一例について、その経過と対応を報告する。

10:25～ Coffee break

歯信州大学医学部附属病院における 周術期口腔機能管理への取り組みについて

講師 信州大学医学部附属病院 特殊歯科・口腔外科
高橋 絢 先生

我が国では高齢化に伴い、歯科受診患者においても複数の全身疾患を有する例が増加している。歯科衛生士が歯周治療や口腔健康管理を行う際には、これらの全身疾患や障害への理解と配慮が不可欠である。2012年には医科歯科連携の一環として周術期口腔管理が診療報酬に導入され、全国的に周術期口腔機能管理が推進されてきている。

信州大学医学部附属病院は長野県の高度医療を担う特定機能病院であり、当科では2012年4月より「信大病院がん患者歯科医療連携」を開始し、外来に周術期口腔管理センターを設置して周術期口腔機能管理を実施している。2021年には歯科衛生士の増員を契機に、信州がんセンター（通院治療室）での口腔機能管理や病棟往診による口腔ケアを開始し、介入体制を強化した。さら2024年度診療報酬改定では、集中治療室で治療を受ける患者や歯科疾患に伴う手術患者が新たに対象に追加され、歯科の介入機会は一層拡大している。これにより歯科衛生士の役割は広がり、医科歯科連携の重要性はますます高まっている。

当院の口腔ケア介入件数は開設当初から年々増加し、昨年までに約7倍へと拡大した。本講演では、当院における周術期口腔機能管理の取り組みと成果、さらに病院歯科衛生士として地域の口腔ケア向上に寄与する活動を紹介し、歯科衛生士の役割拡大に向けた課題と今後の展望について述べる予定である。

【ご略歴】

1998年3月 日本女子大学家政学部児童学科卒業
1998年4月～2002年3月 株式会社 NOVA 勤務
2004年3月 松本歯科大学衛生学院卒業 2004年4月 歯科衛生士資格取得
2004年4月～2007年3月 社会医療法人中信勤労者医療協会 松本協立病院歯科センタ勤務
2008年4月～2014年12月 医療法人社団敬仁会 桔梗が原病院 リハビリテーション部勤務
2015年1月～信州大学医学部附属病院 特殊歯科・口腔外科勤務

【資格】

日本有病者歯科医療学会認定歯科衛生士
日本歯科衛生士会「摂食嚥下リハビリテーション」「研修指導者・臨床実地指導者」認定歯科衛生士

健康にアイデアを

meiji



整形用品 管理医療機器

特定保険医療材料(歯科)

エピシル® 口腔用液

販売名: エピシル®口腔用液

一般的名称: 局所管理ハイドロゲル創傷被覆・保護材

医療機器承認番号: 22900BZX00214000

「効能又は効果」、「用法及び用量」、「警告・禁忌を含む注意事項等情報」等の詳細については、電子化された添付文書をご参照ください。

製造販売元

Meiji Seika ファルマ株式会社

東京都中央区京橋 2 - 4 - 16

<https://www.meiji-seika-pharma.co.jp/>

〈文献請求先及び問い合わせ先〉

Meiji Seika ファルマ株式会社 くすり相談室

〒104-8002 東京都中央区京橋 2-4-16

フリーダイヤル(0120)093-396

電話(03)3273-3539、FAX(03)3272-2438

作成: 2024.1